

科目名	社会福祉原論A		科目コード	W31003	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
	科目ナンバリング		W-PWFF1-04.H	30時間						
区分	社会福祉専門教育科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	必修 必修	担当者名	松本 郁代			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 社会福祉と社会福祉学の違いを確認し、社会福祉政策を学ぶ。また、生活問題を抱えることが自己責任として捉えられてきたことについて、科学的に認識することによって、そもそも社会福祉という営みが、どのように人々に受け入れられていったのかについて講義する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2, 3, 5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1, 2-2, 3-2, 5-2, 5-3に関連している。</p>									
到達 目標	社会福祉政策及び社会福祉の制度を理解する。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容						備 考	
第1回	社会福祉とは何か		社会福祉と「福祉」との違い、社会福祉の定義						社会福祉の定義を調べて、発表する	
第2回	社会福祉の存在意義とは		社会福祉の存在理由を問う							
第3回	社会福祉政策と社会問題①		社会福祉政策の対象とは							
第4回	社会福祉政策と社会問題②		社会福祉の対象としての生活問題						指定論文を複写	
第5回	社会福祉政策の現代的課題		社会的排除と社会的包摂							
第6回	社会福祉の歴史を学ぶにあたって		社会福祉の歴史を学ぶ必要はないか？							
第7回	欧米の社会福祉の歴史①		欧米の前近代社会における社会福祉の歴史							
第8回	欧米の社会福祉の歴史②		欧米の近代社会における社会福祉の歴史①							
第9回	欧米の社会福祉の歴史③		欧米の近代社会における社会福祉の歴史②							
第10回	欧米の社会福祉の歴史④		欧米の現代社会における社会福祉の歴史①							
第11回	欧米の社会福祉の歴史⑤		欧米の現代社会における社会福祉の歴史②							
第12回	社会福祉政策の論点と構成要素①		社会福祉政策							
第13回	社会福祉政策の論点と構成要素②		社会福祉における普遍主義・選別主義							
第14回	社会福祉政策の論点と構成要素③		自己決定とパターナリズム、スティグマ・エンパワーメント							
第15回	社会福祉政策の論点と構成要素④		社会福祉政策の国際比較、福祉国家論							
評価 方法 及び 評価 基準	試験（客観式・短答式）のみで評価									
課題等	その都度、指示をする。									
事前事後 学修	学術雑誌の論文の閲覧について、その都度、指示をする。									
教材 教科書 参考書	井村圭壮・藤原正範編(2007)『日本社会福祉史』勁草書房, ISBN:978-4-326-60197-4 岩崎晋也(2018)『福祉原理 社会はなぜ他者を援助する仕組みを作ってきたのか The principles of Welfare:Why Has Society Been Creating a System of Helping Strangers ? 』有斐閣, ISBN:978-4-641-17442-9 室田保夫(2018)『社会福祉 新・基礎からの社会福祉』ミネルヴァ書房, ISBN:978-4-623-08295-7 ミネルヴァ書房編集委員会編集部(2024)『社会福祉小六法2024』ミネルヴァ書房, ISBN:未定									
留意点	遅刻・私語厳禁、ただし公共交通機関遅延の場合は、遅延証明書を持参のこと。交通事情や天候によって、オンデマンドとすることがある。									

科目名	社会福祉原論B		科目コード	W31004	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	後期
	科目ナンバリング		W-PWFF1-05.H	30時間						
区分	社会福祉専門教育科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	必修 必修	担当者名	松本 郁代			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 社会福祉理論の生成過程の一端を社会事業理論から確認し、現在の社会福祉理論について整理する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 前期と同様									
到達 目標	戦前の社会事業理論が、どのように現在の社会福祉政策や理論につながってくるのか、その歴史的系譜を理解すること。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	社会福祉政策と関連政策			社会福祉政策と教育・労働・住宅・医療の各政策						
第2回	相談援助活動と社会福祉政策			相談援助活動と社会福祉政策の関係を探る						
第3回	社会福祉政策・理論研究と社会福祉原論研究			社会福祉の独自性？						
第4回	社会福祉実践の歴史的系譜			日本における社会福祉援助の源流、医療と社会福祉の分かれ目						
第5回	社会事業理論を学ぶにあたって			社会事業理論と社会福祉理論の連続性						
第6回	社会事業理論としてのケースワーク論			岡本民夫（1973）『ケースワーク研究』ミネルヴァ書房						
第7回	戦前の社会事業理論①			三好豊太郎						
第8回	戦前の社会事業理論②			小澤 一						
第9回	戦前の社会事業理論③			福山政一						
第10回	戦前の社会事業理論④			竹内愛二						
第11回	戦前の社会事業理論⑤			大河内一男・風早八十二						
第12回	戦後の社会福祉理論①			孝橋正一・岡村重夫						
第13回	戦後の社会福祉理論②			新政策論						
第14回	戦後の社会福祉理論③			運動論の源流						
第15回	社会福祉理論の展望			これからの社会福祉理論						
評価 方法 及び 評価 基準	社会福祉原論Aと同様									
課題等	社会福祉原論Aと同様									
事前事 後学修	社会福祉原論Aと同様									
教材 教科書 参考書	社会福祉原論Aと同様									
留意点	社会福祉原論Aと同様									

科目名	介護概論		科目コード	W31007	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
	科目ナンバリング		W-PWFF1-08.	30時間						
区分	社会福祉専門教育科目 社会福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	小川裕幸・駒ヶ嶺裕子			授業 形態	講義	オムニバス	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 本講義では、日常生活場面における生活の質の向上におけるQOL（クオリティオブライフ）の支援方法を理解するために、わが国の高齢者の全体像や、介護保険制度の背景、人間の尊厳等の学習を踏まえたうえで介護における専門的観点を習得することを目的としています。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2, 3, 5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1, 2-2, 3-2, 5-2, 5-3に関連している。									
到達 目標	1) 介護の定義、概念や社会的背景について説明できる。 2) 介護の求められる専門性について説明できる。 3) 介護課程の仕組みについて説明できる。 4) 介護の生活支援技術の基本について説明することができる。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容（授業時間外の学修を含む）						備 考	
第1回	オリエンテーション、介護の目的		介護の原則と職業倫理、尊厳と自立を支える介護、介護の歴史と介護の場						講義	
第2回	介護を必要とする人々と地域共生社会		介護を必要とする人々の現状、地域包括ケア、地域共生社会						講義	
第3回	介護と保健・医療との関係		介護と保健・医療との連携・リハビリテーション・医療的ケア						講義	
第4回	利用者の理解と援助関係の基本		介護を必要とする人々の理解、支援関係の基本						講義	
第5回	コミュニケーション技術		介護場面におけるコミュニケーションの基本とチームのコミュニケーション						講義	
第6回	介護過程		介護過程の基本・実際、介護過程とチームアプローチ						講義	
第7回	生活支援技術の基本Ⅰ（1）		生活支援技術の意義と目的、健康的な生活習慣づくりへの支援、社会生活を維持するための支援						講義	
第8回	生活支援技術の基本Ⅰ（2）		住生活環境の整備と介護福祉用具の活用						講義 PBL（課題解決型学習）	
第9回	生活支援技術の基本Ⅱ（1）		体位変換・移動の介護 身じたくの介護						講義 フィールドワーク	
第10回	生活支援技術の基本Ⅱ（2）		食事の介護 家事の介護						講義 フィールドワーク	
第11回	生活支援技術の基本Ⅱ（3）		入浴・清潔保持の介護						講義 フィールドワーク	
第12回	生活支援技術の基本Ⅱ（4）		排泄の介護						講義 フィールドワーク	
第13回	生活支援技術の基本Ⅱ（5）		睡眠の介護、療養が必要な人の介護						講義 PBL（課題解決型学習）	
第14回	生活支援技術の展開		緊急・事故時、災害時における支援						講義 PBL（課題解決型学習）	
第15回	生活支援技術の展開・まとめ		終末期の介護と家族への支援						講義	
評価 方法 及び 評価 基準	<ul style="list-style-type: none"> 学則規程に従い出席が3分の2に満たない者は評価の対象としない。 テスト80%、レポート20%の割合で評価する。 レポート課題は、その講義内容を踏まえて論理的に記述しているか、理解の程度等を評価する。 									
課題等	<ul style="list-style-type: none"> 授業予習として指定された箇所を読んで授業に臨むこと 予習復習を通して内容の理解に努め、テストに備えること 									
事前事後学修	<ul style="list-style-type: none"> テキストで予習・復習を行うこと（60分）。医療、保健に関係する図書や新聞を読むこと（30分）。 予習復習を通して内容の理解に努め、テストに備えること。 									
教材 教科書 参考書	社会福祉法人全国社会福祉協議会 学習双書編集委員会編『介護概論』, 第15巻, 2024. ISBN9784793514562									
留意点	<ul style="list-style-type: none"> 授業で紹介された文献・国民の福祉の動向・保険と年金の動向など自己学習による積み重ねが重要です。 ニュースなど社会の動向に関心を持ち考えることが重要です。 15回の授業のうち、1回をオンデマンドによる授業を行う場合があります。詳細は授業内に説明します。 									

科目名	介護実技		科目コード	W31008	単位数 時間	1単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-PWFF1-09.		30時間				
区分	社会福祉専門教育科目	選択	担当者名	高田 まり子・幸山 靖子・阿部 智美			授業 形態	実技	後数	
授業の概要等	〔授業の主旨〕 社会福祉を基盤とした介護を実践するために、必要な知識を学習し、生活支援技術を修得する。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2, 3, 5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1, 2-2, 3-2, 5-2, 5-3に関連している。									
到達目標	1. 介護技術に関連する基礎的知識を実践方法を理解する。 2. 生活支援技術を実践し、修得する。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 (授 業 時 間 外 の 学 修 を 含 む)						備 考	
第1回	援助関係を築く基本とコミュニケーション		1. 援助的人間関係とは 2. コミュニケーションの基本と効果的な方法						講義	
第2回	一般状態の観察		1. 介護における観察の意義 2. 一般状態の観察方法						講義	
第3回	高齢者の自立支援と生活環境		1. 生活環境とは 2. 高齢者の社会参加と自立支援 3. 高齢者に住みよい街づくり						講義	
第4回	居住環境の整備		1. 高齢者の自立を支援する居住環境 2. 居住環境と介護						講義	
第5回	睡眠と休息の介護		1. 高齢者の休息と睡眠 2. 休息と睡眠の支援						講義	
第6回	運動と移動の介護 (1)		1. 運動や移動の意義と目的 2. ボディメカニクスを活用した介助方法						講義・実技	
第7回	運動と移動の介護 (2)		1. 移動の自立に向けた用具・道具の活用 2. 車椅子への移乗と移送の方法						講義・実技	
第8回	食事の介護		1. 食事の意義と目的 2. 食事を援助する方法						講義・実技	
第9回	口腔の清潔の介護		1. 口腔ケアの目的と心身への効果 2. 口腔ケアの方法						講義・実技	
第10回	排泄の介護		1. 排泄の意義と目的 2. 排泄介護の特徴 3. 排泄行為の援助方法						講義・実技	
第11回	身体の清潔, 身じたくの介護 (1)		1. 入浴・清潔保持, 身じたくの意義と目的 2. 清潔保持の援助方法						講義	
第12回	身体の清潔, 身じたくの介護 (2)		1. 清潔保持の援助方法 2. 整容と衣服の着脱の援助方法						講義・実技	
第13回	緊急時の介護		1. 高齢者に起こりやすい事故とその予防 2. 緊急時における連携						講義	
第14回	終末期の介護		1. 終末期ケアの意味と介護の役割 2. 危篤時、死後の介護の方法						講義	
第15回	まとめ		授業の総まとめ						筆記試験	
評価方法及び評価基準	2/3以上の出席者について、参加状況 (10%)、ミニレポート (10%)、筆記試験 (80%) で評価する。									
課題等	ミニレポートを課す。提出後は教員が内容を確認し、返却する。									
事前事後学修	予習復習を怠らないこと。									
教材教科書参考書	社会福祉士養成講座編集委員会 編集 新 社会福祉士養成講座 13 『高齢者に対する支援と介護保険制度』 中央法規出版 ISBN:978-4-8058-5807-3 その他、随時資料を配付する。									
留意点	毎回「ミニレポート」を記載し、提出をもって出席とします。 実技の際は、身だしなみを指示します。									

科目名	精神保健福祉援助技術各論A		科目コード	W32026	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-PWPF3-09.		30時間				
区分	社会福祉実践領域科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	駒ヶ嶺 裕子			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 ・精神保健福祉における歴史的展開(精神保健福祉士の資格化されるまで)と現在の活躍場所とその内容を学ぶ。 ・精神障害者とミクロ・メゾ・マクロの関係性を学び「生きづらさ」とは何かを知る。そのうえで精神保健福祉士の専門性をもとにエンパワメントの理解を深める。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2, 3, 5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1, 2-2, 3-2, 5-2, 5-3に関連している。									
到達 目標	1. 精神医療福祉の歴史と動向と精神保健福祉士における活動の歴史を説明できる。 2. 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークの過程を理解する。 3. 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人と家族の関係を理解し、家族への支援方法を理解する。 4. 精神医療、精神保健福祉における多職種連携・多機関連携の方法について理解する。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	オリエンテーション 精神保健福祉士における活動の歴史			精神保健福祉に関する海外と日本の動向を踏まえ、自立生活支援と精神保健福祉士の流れについて学ぶ。				講義		
第2回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの概要①			ソーシャルワークの構成要素、原理、理念、視点、知識、技術				講義		
第3回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの概要②			ソーシャルワークの展開過程				講義		
第4回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの概要③			精神保健福祉分野のソーシャルワークの基本的視点				ディスカッション		
第5回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程①			1アウトリーチ：支援を求める、求めない当事者及び家族へのアプローチ、多問題・社会的孤立とセルフネグレクトへのアプローチ				ディスカッション		
第6回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程②			2インテーク：主訴の把握、スクリーニング、契約				ディスカッション		
第7回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程③			3アセスメント：情報から情報分析・解釈、人と環境の相互作用から捉えた問題の特性等				ディスカッション		
第8回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程④			4 援助関係の形成技法				講義		
第9回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程⑤			5 面接技術とその応用				講義 グループワーク		
第10回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程⑥			6 支援の展開（人、環境へのアプローチ）事例分析				講義 グループワーク		
第11回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程⑦			7 支援の展開（ケアマネジメント）				講義 グループワーク		
第12回	精神保健福祉分野における家族支援の実際①			1 精神障害者家族の課題				講義 グループワーク		
第13回	精神保健福祉分野における家族支援の実際②			2 家族理解の変遷				講義 グループワーク		
第14回	精神保健福祉分野における家族支援の実際③			3 家族支援の方法				講義		
第15回	多職種連携・多機関連携（チームアプローチ）			連携の意義と目的				講義		
評価 方法 及び 評価 基準	定期テスト80%とレポート20%の割合で評価する。 ・定期テストは、到達目標の項目について客観的問題で評価する。 ・レポート課題は、その講義内容を踏まえて論理的に記述しているか、理解の程度等を評価する。									
課題等	精神障害者の人権に取組んだDVDを視聴し、レポート作成やグループワークを行い学生が自ら考えて理解を深めること。									
事前事後 学修	・精神保健福祉に関係する図書や新聞を読むこと。 ・この授業の準備学習時間の目安は、1日あたり60分以上である。									
教材 教科書 参考書	【教科書】最新 精神保健福祉士養成講座6「ソーシャルワークの理論と方法（精神専門）」中央法規 ISBN978-4-8058-8257-3 【参考書】野崎和義 監修・ミネルヴァ書房編集部 編『ミネルヴァ社会福祉六法2024 [令和6年版]』									
留意点	この科目は、精神保健福祉士の受験資格取得のための指定科目である。 15回の授業のうち、1回をオンデマンドによる授業を行う場合がある。詳細は授業内に説明する。									

科目名	精神保健福祉援助技術各論B		科目コード	W32027		単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-PWPF3-10.			30時間				
区分	社会福祉実践領域科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	駒ヶ嶺 裕子			授業 形態	講義	単独		
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 精神保健福祉における歴史的展開(精神保健福祉士の資格化されるまで)と現在の活躍場所とその内容を学ぶ。 精神障害者とミクロ・メゾ・マクロの関係性を学び「生きづらさ」とは何かを知る。そのうえで精神保健福祉士の専門性をもとにエンパワメントの理解を深める。 <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2, 3, 5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1, 2-2, 3-2, 5-2, 5-3に関連している。</p>										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 精神医療、精神保健福祉における多職種連携・多機関連携の精神保健福祉士の役割を理解することができる。 精神保健福祉士と所属機関の関係を踏まえ、組織運営管理、組織介入・組織活動の展開に関する概念と方法を学ぶ。 個別支援からソーシャルアクションへの実践展開をミクロ・メゾ・マクロの連続性・重層性を踏まえて理解することができる。 精神保健福祉分野以外における精神保健福祉士の実践展開を学ぶ。 										
授 業 計 画											
回	主 題		授 業 内 容						備 考		
第1回	オリエンテーション、多職種連携・多機関連携(チームアプローチ)①		2 多職種連携・多機関連携の留意点						講義		
第2回	オリエンテーション、多職種連携・多機関連携(チームアプローチ)②		3 チームビルディング						講義		
第3回	オリエンテーション、多職種連携・多機関連携(チームアプローチ)③		4 チームの形態と特徴						講義		
第4回	オリエンテーション、多職種連携・多機関連携(チームアプローチ)④		5 連携における精神保健福祉士の役割						講義		
第5回	オリエンテーション、多職種連携・多機関連携(チームアプローチ)⑤		6 多職種連携・多機関連携(チームアプローチ)の実際(事例分析)						講義 ディスカッション		
第6回	ソーシャルアドミニストレーションの展開方法①		1 ソーシャルアドミニストレーションの概念とその意義						講義		
第7回	ソーシャルアドミニストレーションの展開方法②		2 組織と精神保健福祉士の関係性						講義		
第8回	ソーシャルアドミニストレーションの展開方法③		3 組織介入・組織改善の実践モデル						講義		
第9回	ソーシャルアドミニストレーションの展開方法④		4 組織運営管理の実際						講義		
第10回	コミュニティワーク①		1 精神保健福祉分野におけるコミュニティワークの意義						講義		
第11回	コミュニティワーク②		2 地域における精神保健福祉の向上						講義		
第12回	個別支援からソーシャルアクションへの展開①		1 基本的視点 2 個別支援から地域における体制整備						講義		
第13回	個別支援からソーシャルアクションへの展開②		3 政策提言・政策展開						講義 ディスカッション		
第14回	個別支援からソーシャルアクションへの展開③		4 精神障害者の地域移行・地域定着に関わる展開(事例分析)						講義 ディスカッション		
第15回	関連分野における精神保健福祉士の実践展開		1 学校・教育分野 スクールソーシャルワーク 2 産業分野 EAP、3 司法分野、4 その他						講義 ディスカッション		
評価方法及び評価基準	<p>定期テスト80%とレポート20%の割合で評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 定期テストは、到達目標の項目について客観的問題で評価する。 レポート課題は、その講義内容を踏まえて論理的に記述しているか、理解の程度等を評価する。 										
課題等	精神障害者の人権に取組んだDVDを視聴し、レポート作成やグループワークを行い学生が自ら考えて理解を深めること。										
事前事後学修	<ul style="list-style-type: none"> 精神保健福祉に関係する図書や新聞を読むこと。 この授業の準備学習時間の目安は、1日あたり60分以上である。 										
教材教科書参考書	<p>【教科書】最新 精神保健福祉士養成講座6「ソーシャルワークの理論と方法(精神専門)」中央法規 ISBN978-4-8058-8257-3</p> <p>【参考書】野崎和義 監修・ミネルヴァ書房編集部 編『ミネルヴァ社会福祉六法2024 [令和6年版]』</p>										
留意点	この科目は、精神保健福祉士の受験資格取得のための指定科目である。15回の授業のうち、1回をオンデマンドによる授業を行う場合がある。詳細は授業内に説明する。										

科目名	児童福祉論B		科目コード	W33002	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-PWBF2-02.		30時間				
区分	社会福祉分野領域科目 社会福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	宮田 将希			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕									
	<ul style="list-style-type: none"> 子ども・家庭福祉に関する基本的な内容について学習する。 社会的養護を必要とする子どもやその家族の状況について学習する。 子ども家庭福祉領域に関する事例をもとに議論や検討を行う。 									
到達 目標	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕									
	ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1, 5-2, 5-3に関連している。									
到達 目標	子ども家庭福祉に関する基本的な内容について理解すること。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	オリエンテーション・前期の復習		授業の進め方と、前期に行った講義の復習・おさらい。							
第2回	子どもの虐待①		子どもが受ける虐待と、それに伴う様々な影響について学ぶ。							
第3回	子どもの虐待②		子どもが受ける虐待と、それに伴う様々な影響について学ぶ。							
第4回	事例検討①		子ども家庭福祉に関する事例をもとに、内容についての議論・検討を行う。							
第5回	社会的養護①		社会的養護の説明と、児童福祉施設についての説明、及び実際の現場においてどのような支援が行われているかについて学ぶ。							
第6回	社会的養護②		社会的養護の説明と、児童福祉施設についての説明、及び実際の現場においてどのような支援が行われているかについて学ぶ。							
第7回	社会的養護③		社会的養護の説明と、児童福祉施設についての説明、及び実際の現場においてどのような支援が行われているかについて学ぶ。							
第8回	家族支援		社会的養護における家族支援の内容について学ぶ。							
第9回	アフターケア		社会的養護におけるアフターケアの内容について学ぶ。							
第10回	事例検討②		子ども家庭福祉に関する事例をもとに、内容についての議論・検討を行う。							
第11回	子ども家庭福祉とソーシャルワーク		子ども家庭福祉の領域において、ソーシャルワークがどのように展開されているかについて学ぶ。							
第12回	子どもの貧困		子ども陥っている貧困状況について学ぶ。							
第13回	若者支援・女性支援		子どもに関連する領域としての若者支援や女性支援についての現状を学ぶ。							
第14回	事例検討③		子ども家庭福祉に関する事例をもとに、内容についての議論・検討を行う。							
第15回	まとめ		これまでのまとめ							
評価 方法 及び 評価 基準	授業への参加度30%（出席・リアクションペーパー・発言等） 期末試験70%									
課題等	適宜									
事前事後 学修	授業の進捗に合わせて、指定の教科書の該当部分を予習・復習すること。									
教材 教科書 参考書	日本ソーシャルワーク教育連盟編集（2021）『最新社会福祉養成講座3「児童・家庭福祉」』中央法規 978-4-8058-8246-7									
留意点										

科目名	障害者福祉論B		科目コード	W33004	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-PWBF2-05.		30時間				
区分	社会福祉分野領域科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	鳴海 春輝			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>障害の概念と特性を踏まえ、障害者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解する。障害者福祉の歴史と障害者親の変遷、制度の発展過程について理解する。障害者に対する法制度と支援の仕組みの基礎的部分を理解する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1, 5-2, 5-3に関連している。</p>									
到達 目標	<p>障害の概念と特性を踏まえ、障害者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解することができる。障害者福祉の歴史と障害者親の変遷、制度の発展過程について理解することができる。障害者に対する法制度と支援の仕組みの基礎的部分を理解することができる。障害による生活課題を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士としての適切なあり方を理解することができる。多職種との専門職と連携して障害者の基本的な相談支援に対応できる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	オリエンテーション			障害者福祉論Aの復習、授業の進め方						
第2回	障害者の福祉と労働①			働くことの意味、障害者の就労実態				ディスカッション		
第3回	障害者の福祉と労働②			労働保障の制度（障害者雇用促進法等）、障害者の権利条約				ディスカッション		
第4回	障害者の所得保障①			障害者の低所得性、障害基礎年金、社会手当				ディスカッション		
第5回	障害者の所得保障②			労災制度、生活保護制度、負担軽減措置				ディスカッション		
第6回	障害者の社会生活参加①			障害者の社会参加の実態、世論の障害理解の実態				ディスカッション		
第7回	障害者の社会生活参加②			バリアフリー環境の整備				ディスカッション		
第8回	障害児の福祉サービス①			子どもの権利条約、障害者権利条約				ディスカッション		
第9回	障害児の福祉サービス②			母子保健法、児童福祉法の改正				ディスカッション		
第10回	障害福祉の整備計画と障害者運動①			障害者権利条約と国の責務の縮小				ディスカッション		
第11回	障害福祉の整備計画と障害者運動②			国・地方公共団体の役割、障害者福祉計画と障害者参加				ディスカッション		
第12回	障害者福祉現場で働く職員①			職員配置基準、相談支援専門員				ディスカッション		
第13回	障害福祉現場で働く職員②			サービス管理責任者、サービス提供責任者、国家資格				ディスカッション		
第14回	障害者相談支援の臨床事例①			知的障害者の地域生活における事例、身体障害者の事例に学ぶ				ディスカッション		
第15回	障害者相談支援の臨床事例②			精神障害者の長期入院の事例、てんかんで失職後就労した事例に学ぶ				ディスカッション		
評価 方法 及び 評価 基準	<p>レポート30%、定期試験70%で評価する。定期試験では、到達目標に掲げた項目について基本概念や専門用語の理解を試す問題を出す。【知識・理解】の観点から評価する。また、【科目への関心・学習意欲・受講態度】【問題解決の思考・判断】【技能・表現方法】の観点からレポート提出も求める。</p>									
課題等	<p>レポートは、第8回目の授業の際、課題を複数題提示し、その中から1つ選択しレポートを作成する。第11回目の授業時間に提出する。</p>									
事前事後 学修	<p>「授業計画」で示した各回の主題や授業内容について、下記教科書等を読み事前準備学習を1日あたり30分以上行うこと。復習は当該回の配布プリント及び下記教科書等を読み返すこと。復習は毎回90分以上行うこと。</p>									
教材 教科書 参考書	<p>教科書：新・社会福祉士シリーズ『障害者福祉』弘文堂の第6章から第12章を講義。 ISBN 978-4-335-61219-0 参考書：NHKラジオ第2放送「社会福祉セミナー」放送及びテキスト ISBN 978-4-14-911080-6</p>									
留意点	<p>定期試験は学習範囲から網羅的に出題するので、毎回出席するよう心掛けてほしい。</p>									

科目名	老人福祉論B		科目コード	W33006	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期	
	科目ナンバリング		W-PWBF2-08.	30時間							
区分	社会福祉分野領域科目 社会福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	中村 直樹			授業 形態	講義	単独		
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 本講義では、介護保険制度と高齢者支援の方法について学習する。とくに、介護保険制度について学習する中では、制度創設の沿革や目的、基本的な仕組み、運用等について具体的事例を紹介しながら授業を展開する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1, 5-2, 5-3に関連している。</p>										
到達 目標	<p>(1) 介護保険制度の仕組みや介護保険サービス体系を中心に高齢者支援に関する基礎について理解する。 (2) 高齢者を支える制度・政策を学習する中において、支援の実際を具体的にイメージしながら考えることができるようになる。 (3) 高齢者の生活実態やニーズに対する社会的支援策を理解し、援助に関する基本的視点を身につける。</p>										
授 業 計 画											
回	主 題		授 業 内 容 (授 業 時 間 外 の 学 修 を 含 む)						備 考		
第1回	介護保険制度の基本的枠組み		介護保険制度の全体像								
第2回			介護保険制度の目的と理念								
第3回			保険財政								(教科書第5章を予習・復習する)
第4回			保険者と被保険者								
第5回			介護保険制度の最近の動向								
第6回	介護保険制度の仕組み		要介護認定の仕組みとプロセス								
第7回			保険給付								
第8回			介護報酬								(教科書第6章を予習・復習する)
第9回			地域支援事業								
第10回			介護保険事業計画								
第11回	介護保険サービスの体系		介護保険サービスにおける専門職の役割と実際						グループワーク		
第12回			介護保険サービスの種類						(教科書第7章を予習・復習する)	グループワーク	
第13回	高齢者を支援する組織と役割		地域包括支援センターの組織体系と役割(教科書第8章を予習・復習する)						プレゼンテーション		
第14回	高齢者支援の方法と実際		相談援助とケアマネジメント						(教科書第9章を予習・復習する)		
第15回	高齢者を支援する専門職の役割と実際		専門職による協働と多職種連携						(教科書第10章を予習・復習する)		
評価 方法 及び 評価 基準	<ul style="list-style-type: none"> ①期末試験(70%)、②授業内課題(30%)で、総合的に評価する。総合して60%以上の者に対し単位を認定する。 期末試験は、到達目標をもとに、高齢者を支援する法制度や仕組み等についての基本的概念や語句等の理解が正しくできているかについて評価する。 授業内課題は、毎回の授業終了時にリアクションペーパーの記入・提出により評価する。 										
課題等	特になし										
事前事後 学修	講義にて指示する										
教材 教科書 参考書	<p>(教科書) 新・社会福祉士養成講座 13『高齢者に対する支援と介護保険制度(第6版)』 中央法規出版 ISBN:978-4805858073</p> <p>(参考書) いとう総研資格取得支援センター 編 『見て覚える!社会福祉士国試ナビ』 中央法規出版 ISBN:978-4805883174</p>										
留意点	<ul style="list-style-type: none"> 保健・医療・福祉に関連する事件やニュースについて関心を払い、毎回、1件以上の事件やニュースについて具体的に発表・記述できるようにしておくこと。 期末試験は、学習範囲から網羅的に出題するので、毎回出席するように心がけること。 										

科目名	公的扶助論B		科目コード	W33008	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	後期
	科目ナンバリング		W-PWBF2-11.	30時間						
区分	社会福祉分野領域科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	丸山 龍太			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>公的扶助（生活保護）は公的責任に基づき、租税を財源として貧困者に対して行われる所得保障の制度である。社会保険とならび社会保障の主要部門を構成している。貧困の拡大が社会問題となる現在、セーフティネットとして位置付けられる公的扶助は、改めてその現代的意義が問われている。</p> <p>公的扶助論Bでは、公的扶助論Aで学んだ基礎を踏まえ、生活保護行政が抱える種々の課題に関し、より深く取り上げることとする。わが国の公的扶助制度が、権利保障の完全なる確立にまで昇華する為の課題を共に考えることとする。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1, 5-2, 5-3に関連している。</p>									
到達目標	<p>到達目標は、以下の3点である。</p> <p>①わが国の公的扶助制度が抱える問題点とは何かを他者に説明することが出来る。</p> <p>②公的扶助を権利保障の制度へと更に昇華させる為の具体的な対策等を提示できる。</p> <p>③公的扶助に悪影響を与え続けているスティグマの除去の為、私たちは何が出来るかを考え行動することが出来る。</p>									
授業計画										
回	主 題		授業内容・授業時間外の学修						備考	
第1回	公的扶助の課題の整理		公的扶助が抱える数々の課題に関し理解する。Wi-Fiに接続し、調べながらThink pair shareを行う						講義	
第2回	公的扶助制度の諸課題①（生活保護法）		生活保護法が抱える課題を法誕生の経緯から整理する。Wi-Fiに接続し、調べながらThink pair shareを行う						講義	
第3回	公的扶助制度の諸課題②（生活保護法）		生活保護法が抱える課題を法誕生の経緯から整理する。Wi-Fiに接続し、調べながらThink pair shareを行う						講義	
第4回	公的扶助制度の諸課題③（福祉事務所）		生活保護を運用する福祉事務所が抱える課題点を多角的に整理する。Wi-Fiに接続し、調べながらThink pair shareを行う						講義	
第5回	公的扶助制度の諸課題④（福祉事務所）		生活保護を運用する福祉事務所が抱える課題点を多角的に整理する。Wi-Fiに接続し、調べながらThink pair shareを行う						講義	
第6回	公的扶助制度の諸課題⑤（国）		生活保護法が抱える課題を国の動向から整理する。Wi-Fiに接続し、調べながらThink pair shareを行う						講義	
第7回	公的扶助制度の諸課題⑥（民）		スティグマの理解を踏まえた上で、生活保護法と民との関係性と課題を整理する。Wi-Fiに接続し、調べながらThink pair shareを行う						講義 9回目以降のグループ編成	
第8回	公的扶助制度の諸課題⑦（民間団体）		貧困に抗する活動を続ける民間団体に関する理解を深める。Wi-Fiに接続し、調べながらThink pair shareを行う						講義	
第9回	グループ発表会準備①		これまでの学びを踏まえ、公的扶助制度を前へと進める為の課題をグループで検討し、プレゼンテーション資料を作成する。						グループワーク	
第10回	グループ発表会準備②		これまでの学びを踏まえ、公的扶助制度を前へと進める為の課題をグループで検討し、プレゼンテーション資料を作成する。						グループワーク	
第11回	グループ発表会準備③		これまでの学びを踏まえ、公的扶助制度を前へと進める為の課題をグループで検討し、プレゼンテーション資料を作成する。						グループワーク	
第12回	グループ発表会準備④		これまでの学びを踏まえ、公的扶助制度を前へと進める為の課題をグループで検討し、プレゼンテーション資料を作成する。						グループワーク	
第13回	グループ発表会①		これまでにまとめた課題等をグループごとに発表し、クラス内で意見交換を行う						プレゼンテーション	
第14回	グループ発表会②		これまでにまとめた課題等をグループごとに発表し、クラス内で意見交換を行う						プレゼンテーション	
第15回	グループ発表会③		これまでにまとめた課題等をグループごとに発表し、クラス内で意見交換を行う						プレゼンテーション	
評価方法及び評価基準	<p>出席が3分の2に満たない者は評価の対象としない。授業への参加度20%、グループ発表会での参加度30%、試験50%で評価する。試験は、ある事例を用いて課題解決に向けたプラン作成を求めるものとし、能動的に知識獲得及び活用が図られているかを問う。グループ発表会では、グループに分かれ公的扶助制度を前進させる為の課題とそれに関する解決策を作り上げクラス内で発表し、意見交換を行う。その際の取り組み状況、発表会への参加度等を評価の対象とする。参加度は、毎回協同学習の1つである「Think-Pair-Share」を実施する中で、その活動への関わり方等を踏まえ評価を行う。</p>									
課題等	<p>レポート課題及び試験はTEAMS上で提示するので、TEAMSにより提出する。レポート課題及び試験を通じて授業への理解度を図ると同時に復習の時間とする。復習は1回の授業につき90分程度の時間を要する内容とする。</p>									
事前事後学修	<p>毎回、次週の授業に必要な事柄を予習するよう具体的に指示する。予習は1回の授業につき90分程度の内容とする。この予習は授業内のThink-Pair-Shareを行う為に必須となる。</p>									
教材教科書参考書	<p>伊藤秀一編著『貧困に対する支援』弘文堂、2022年（ISBN 978-4-335-61221-3）</p>									
留意点	<p>9回目以降予定しているグループ発表会のいずれかの回でも遅刻・欠席した場合、原則として30%分の減点として対応するので、注意すること。</p>									

科目名	社会福祉行政論		科目コード	W33029	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
	科目ナンバリング		W-PWBF2-16.	30時間						
区分	社会福祉分野領域科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	西東 克介			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 社会福祉行政、これに関わる行政組織・民間組織・専門職との関係を分析し、問題点を考察します。社会福祉行政論には、部分的ではあるが、政治の知識がある程度あったほうがよい。政治学A・Bをまだ取っていない学生は、できれば履修してほしい。これからも医療福祉関連の予算は膨らんでいきます。こうした中でも、本学部のポリシーである福祉実践者は「人づくり」や活発なボランティア活動がなぜ必要なのかについても学んでいきます。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1, 5-2, 5-3に関連している。</p>									
到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉行政を国家論および官僚制論から見ていくことができるようにします。 ・スペシャリスト、エキスパート、「専門職」、専門職の関係を理解し、自らの指針に磨きをかけます。 									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容						備 考	
第1回	講義の概要と展開		本講義の概要、展開、そして試験等について説明。							
第2回	福祉国家と行政国家と「大きな政府」の違いと共通点		福祉国家とは、福祉行政や関連する行政が増大した国家、行政国家とは3権の中で、行政部門が肥大した国家、「大きな政府」とは、あらゆる行政が肥大した国家です。共通点はいずれも行政費用の増大をまねきます。							
第3回	日本の福祉行政の歴史的展開と今後		戦後から1990年代までの福祉行政と2000年代からの福祉行政では、その理念や具体的政策が大きく変わった。							
第4回	社会福祉行政と地方公共団体		変わった点は、地方自治体の役割が非常に大きくなりました。措置から契約へとほぼ政策理念が変わり、多くの社会福祉法人や民間企業が社会福祉事業に関わることになりました。							
第5回	介護保険制度と行政		社会福祉政策の中でも大きく変わったのが高齢社会に対応した介護保険制度が取り入れられたことです。							
第6回	社会福祉事業と事業者に対する指揮監督		政策に契約理念が採用されたため、たくさんの高齢者施設やサービス事業が社会福祉法人や民間企業によってできました。契約どおりにサービス提供ができない場合、行政の指揮監督がなされることも。							
第7回	社会福祉の費用と財源		社会福祉の費用と財源は、基本的には国の税金と国民の介護保険料等で賄われます。その他には、寄付金などがあります。							
第8回	ガバナンスと制度改革		数年前の制度改革は、組織のガバナンスを強化する方向性が打ち出された。このガバナンスの理解と制度改革の方向性を考える。							
第9回	制度改革 1		改正前と改正後の比較から考える。							
第10回	制度改革 2		その2							
第11回	社会福祉の専門諸機関		社会福祉の専門諸機関を行政組織として分析し考える。							
第12回	相談過程と地域の相談システム		2000年以降の発展過程を中心に考える。							
第13回	専門職の専門性		専門職の専門性について、行政統制（行政責任）論と専門性の2方向性から考える。							
第14回	社会福祉専門職		前回の専門職論から考察すると、社会福祉の各専門職は、どのように分類可能かを考える。							
第15回	まとめと試験		講義全体のまとめと試験							
評価 方法 及び 評価 基準	試験とその前提としての出席。試験の点数は、2回までの欠席が減点なし、3-5回が1回につき5点減点。									
課題等	社会福祉行政が現実の政治（議会）と行政と常に絡んでいる部分を講義の中で一緒に探っていきましょう。									
事前事後 学修	・講義の前日は、福祉に関する記事の一つ、新聞かネットニュースで読んでください。講義終了日は、レジュメをしっかりと読み返し、印刷した新聞記事の一つ丁寧に読んでください。									
教材 教科書 参考書	・教科書：池村正道編集『福祉行政と福祉計画』（社会福祉士シリーズ10）弘文堂、2020年（第4版）ISBN:978-4335612053									
留意点	第1回目を欠席する学生は事前に連絡をして下さい。									

科目名	福祉計画論		科目コード	W33030	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	後期
	科目ナンバリング		W-PWBF2-17.	30時間						
区分	社会福祉分野領域科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	西東 克介			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>官僚制の下で、計画が組織化されていくことの意義を認識し、その長所と短所について理解。100年以上も前、ドイツのM.ウエーバーは、未来の人間のほとんどの活動は組織に動かされていくと著書の中で述べています。その組織の長所と短所について理解に努めて下さい。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1, 5-2, 5-3に関連している。</p>									
到達 目標	官僚制と計画の関係を理解し、福祉計画に関する長所と短所を学びます。行政責任（行政統制）論を理解し、福祉計画の評価と監査の違いの理解に努めて下さい。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	講義の概要説明		講義の概要、計画、試験等について説明。							
第2回	計画とは何か		計画の基本的理解と我が国戦後の国家的計画の歴史を学びます。							
第3回	行政計画と福祉計画		行政福祉計画と社会福祉法人等の福祉計画の理解。							
第4回	福祉計画の策定過程とその方法		PDCAサイクルの基礎的理解とその策手方法の理解。							
第5回	評価と監査の違いとアカウンタビリティ		アカウンタビリティの分析により、評価と監査の違いと人間の自発性を考えます						アカウンタビリティについてワークショップ。	
第6回	福祉計画の評価方法		福祉計画の方法と評価と監査の違い							
第7回	福祉計画におけるニーズとは		福祉計画におけるニーズを類型化して理解。							
第8回	ボランティア（NPO）と福祉計画		ボランティアを福祉計画にどのように絡めるのかを理解。							
第9回	地域の伝統文化と計画		地域の伝統文化には、地域の多くの住民が長年親しんで来ている。そうしたぶんかをどのように福祉や福祉計画にからめるのかを考えます。							
第10回	具体的な福祉計画		様々な活動をどのように福祉活動として計画に取り入れていくのかを考察。							
第11回	住民参加と福祉計画		地域住民が福祉や福祉計画について考える意義について理解。							
第12回	クライアントの自発性と福祉計画		福祉の業務やボランティアに関わる人々が、クライアントは何もできないと思っはいけない。クライアントは特技を持っている場合が多い。その自発性の尊重と福祉や福祉計画を考察。							
第13回	スペシャリストとジェネラリストと福祉計画		集団や組織にはスペシャリストとジェネラリストの能力がめか決。あるいは双方の能力を持つ人がいてもいい。福祉計画を策定していく際に、これをいかに方法を考察。							
第14回	ケアの理念と福祉計画		福祉に携わるあらゆる専門職や一般の人々のケアの理念について考えます。							
第15回	まとめと試験		福祉計画論のまとめと試験。							
評価 方法 及び 評価 基準	ワークショップ（30%）と試験（70%）									
課題等	これまで経験してきた学校内、校外の作業、ボランティアなどを思い出しながら講義を受けてください。、									
事前事後 学修	講義の前日は、パソコンやスマホなどでボランティア活動などの情報を読んでみてください。									
教材 教科書 参考書	社会福祉行政論の教科書と同じ。									
留意点										

科目名	医療ソーシャルワーク論		科目コード	W32006	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-PWBF2-19.		30時間				
区分	社会福祉分野領域科目	選択	担当者名	駒ヶ嶺 裕子			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>保健医療関連の制度とサービスを踏まえて、医療ソーシャルワーカーと関連職種の基本的な役割を学ぶ。そのうえで、ソーシャルワークにおける在宅医療・福祉の視点から患者本人の支援方法を学生が主体的に学ぶことを目的としている。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2, 3, 5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1, 2-2, 3-2, 5-1, 5-2, 5-3に関連している。</p>									
到達 目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療ソーシャルワーク実践において必要となる保健医療の動向を理解する。 2. 保健医療に係る政策、制度、サービスについて理解する。 3. 保健医療領域における医療ソーシャルワーカーの役割と、連携や協働について理解する。 4. 保健医療に課題を持つ人に直接的、間接的な医療ソーシャルワーカーの支援方法を理解する。 									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容						備 考	
第1回	オリエンテーション 医療ソーシャルワーカーの意義		授業概要の説明、わが国の少子高齢化の現状と問題点 疾病構造の変化・感染症の減少・生活習慣病の増加						講義	
第2回	医療施設から在宅医療		在宅医療の役割と課題						講義	
第3回	保健医療における福祉的課題①		依存症、認知症、自殺企図、虐待防止①						講義	
第4回	保健医療における福祉的課題②		依存症、認知症、自殺企図、虐待防止②						プレゼンテーション	
第5回	医療施設の概要		病院(特定機能病院、地域医療支援病院等)、診療所などの病院 や病床の機能分化を学ぶ						講義	
第6回	保健医療領域における専門職		専門職種の役割・分類を理解する(医師、歯科医師、保健師、看護師、理学 療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士、介護福祉士、精神保健福 祉士、介護支援専門員、居宅介護従事者等)						プレゼンテーション	
第7回	保健医療領域における社会福祉士の役割		医療ソーシャルワーカーの業務指針を学ぶ						講義	
第8回	保健医療に係る倫理		患者本人の自己決定権の尊重にかかわる医療倫理の6原則を 学ぶ						講義	
第9回	保健医療に係る倫理		保健医療にかかわる倫理的課題を学ぶ(高度生殖医療、出生前診 断、脳死と臓器移植、尊厳死、身体抑制)						講義	
第10回	保健医療領域における支援の実際①		疾病及びそのリスクがある人を理解する(入院・退院時の支 援、在宅医療における支援)						ディスカッション	
第11回	保健医療領域における支援の実際②		救急・災害現場における支援と終末期ケア及び認知症ケアにお ける本人と家族の支援方法を学ぶ						ディスカッション	
第12回	保健医療対策の概要		保健所の役割と地域医療の指針(5疾病、5事業、薬剤耐性 (AMR)対策)を学ぶ						講義	
第13回	医療保険制度の概要①		さまざまな社会保障制度を学ぶ(無料低額診療事業、労災保 険、傷病手当金、特定疾患医療費助成制度)						講義	
第14回	医療保険制度の概要②		診療報酬制度の体系を学ぶ						講義	
第15回	まとめ		医療ソーシャルワークの実践事例から支援方法を学ぶ						講義	
評価 方法 及び 評価 基準	<p>テスト80%とレポート20%の割合で評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テストは、到達目標の項目について客観的問題で評価する。 ・レポート課題は、その講義内容を踏まえて論理的に記述しているか、理解の程度等を評価する。 									
課題等	終末期ケアのDVDを視聴し、レポート作成後に次の講義でフィードバックし理解を深める。									
事前事 後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・医療、保健に関係する図書や新聞を読むこと。 ・この授業の準備学習時間の目安は、1日あたり60分以上である。 									
教材 教科書 参考書	<p>【教科書】日本医療ソーシャルワーク研究会「医療福祉総合ガイドブック〈2023年度版〉」医学書院</p> <p>【参考書】野崎和義 監修・ミネルヴァ書房編集部 編『ミネルヴァ社会福祉六法2023〔令和5年版〕』、2023</p>									
留意点	この授業は、医療ソーシャルワーカーを目指す学生、または保健医療関係の興味ある学生の履修が望ましい。 15回の授業のうち、1回をオンデマンドによる授業を行う場合がある。詳細は授業内に説明する。									

科目名	精神保健福祉制度論B		科目コード	W33022	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	後期
	科目ナンバリング		W-PWBF2-23.	30時間						
区分	社会福祉分野領域科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	大原 さやか			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 精神保健福祉制度論Bは、精神保健福祉士が精神障害者のおかれた状況や抱える問題理解していく上で、精神保健福祉法の理解は不可欠である。そこで、精神保健福祉法の目的および対象として、法律の目的、法律の対象、精神保健福祉センターなどの規定について概説する。また、心神喪失者等医療観察法や更生保護法から司法・医療・福祉の連携について説明する。さらには、精神保健福祉士の専門職性とその研究から学んだ社会調査（量的調査法、質的調査法）についても概説する。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1, 5-2, 5-3に関連している。									
到達 目標	精神保健福祉士は、精神保健福祉法を活用して精神障害者の社会的復権の実現を図っていく必要がある。そこで、精神保健福祉法の運用の基本法律である精神保健福祉法について詳細に学び、いつでも活用できるよう身につけておく。また、近年改正された精神保健福祉法の中で、保護者制度の廃止、地域移行支援に向けた法整備など学ぶ。さらには、司法・医療・福祉の連携や、社会資源の調整・開発にかかわる社会調査の方法を身につける。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考		
第1回	精神保健福祉法の概要①		第1条：法の目的、第2条：国及び地方公共団体の義務、他					視聴覚（スライド）使用		
第2回	精神保健福祉法の概要②		第19条の7：都道府県立精神科病院、 第19条の8：指定病院、他					視聴覚（スライド）使用		
第3回	精神保健福祉法の概要③		第29条：措置入院、第30条：費用負担、他					視聴覚（スライド） 使用		
第4回	精神保健福祉法の概要④		第33条第1項：医療保護入院、第33条の7：応急入院、他					小テスト① 視聴覚（スライド） 使用		
第5回	精神保健福祉法の概要⑤		第34条：医療保護入院のための移送制度、第45条：精神障害者 保健福祉手帳、他					視聴覚（スライド） 使用		
第6回	医療観察法の概要と実際①		医療観察法の目的等、医療観察法の合議制、他					小テスト② 視聴覚（スライド） 使用		
第7回	医療観察法の概要と実際②		医療観察法の流れ、医療観察法の抗告、他					視聴覚（スライド） 使用		
第8回	医療観察法の概要と実際③		医療観察法の指定医療機関、医療観察法の精神保健観察					小テスト③ 視聴覚（スライド） 使用		
第9回	医療観察法の概要と実際④		医療観察法の抗告、医療観察法の実際					視聴覚（スライド）使用		
第10回	医療観察法の概要と実際⑤		保護観察所の業務、社会復帰調整官					小テスト④視聴覚 （スライド）使用		
第11回	司法・医療・福祉の連携①		更生保護対象者の特徴、					視聴覚（スライド）使用		
第12回	司法・医療・福祉の連携②		司法・医療・福祉の連携の必要性和実際					視聴覚（スライド）使用		
第13回	司法・医療・福祉の連携③		更生保護に関する新たな施策、社会内処遇の今後					小テスト⑤視聴覚 （スライド）使用		
第14回	社会資源の調整開発にかかわる社会調査①		精神保健福祉士の専門職性に関する研究（研究目的、研究方法 など）					視聴覚（スライド）使用		
第15回	社会資源の調整開発にかかわる社会調査②		アンケート調査による量的調査方法、質的調査方法					視聴覚（スライド）使用		
評価 方法 及び 評価 基準	学則規程に従い出席が3分の2に満たない者は評価の対象としない。定期試験（100%）で評価する。定期試験は、主に精神保健福祉法、医療観察法、更生保護法などについてどの程度理解したか評価する。									
課題等	精神保健福祉法から医療観察法については、復習小テストを5回実施する。小テストの実施により、理解の深化を図る。									
事前事後 学修	事前学習では、指定のテキストを読んでくる。講義後は、さらに知識を深める為に、精神保健福祉法詳解、更生保護制度などを調べ補足する。									
教材 教科書 参考書	新・精神保健福祉士養成講座第6巻 「精神保健福祉に関する制度とサービス」 第6版 中央法規出版									
留意点	この科目は、精神保健福祉士の受験資格取得のための指定科目である。									

科目名	精神科リハビリテーション学B		科目コード	W33020	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-PWBF3-25.		30時間				
区分	社会福祉分野領域科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	小山内 隆生			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 精神科リハビリテーションの具体的な実施方法について学習する。利用者のニーズに対応した援助・支援プログラムを企画実施するための基本的な考え方を学び、精神科リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割・多職種協働のあり方等について理解を深める。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1, 5-2, 5-3に関連している。</p>									
到達目標	<p>①精神保健福祉士が行うリハビリテーションの知識と技術が理解できる。 ②多職種連携における精神保健福祉士の役割が理解できる。 ③地域リハビリテーションの構成が理解できる。 ④ケアマネジメントの基本的考え方と活用法が理解できる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修					備考	
第1回	オリエンテーション 前期のまとめ			1. 授業の進め方 2. 精神科リハビリテーション学Aのまとめ					講義	
第2回	リハビリテーションの分野			医学的リハビリテーション、職業的リハビリテーション、 教育的リハビリテーション、社会的リハビリテーション					講義	
第3回	精神科作業療法			定義、構造、歴史、基本的考え方					講義	
第4回	行動療法			定義、構造、歴史、基本的考え方					講義	
第5回	認知行動療法			定義、構造、歴史、基本的考え方					講義	
第6回	集団精神療法			定義、構造、歴史、基本的考え方					講義	
第7回	依存症回復プログラム			定義、構造、歴史、基本的考え方					講義	
第8回	デイケア等			定義、構造、歴史、基本的考え方					講義	
第9回	職業リハビリテーションプログラム			意義、歴史、現状、将来の課題					講義	
第10回	社会生活技能訓練			意義、歴史、現状、将来の課題					講義	
第11回	心理教育プログラム			意義、歴史、現状、将来の課題					講義	
第12回	生活訓練プログラム・地域移行			意義、歴史、現状、将来の課題					講義	
第13回	WRAP・当事者研究			意義、歴史、現状、将来の課題					講義	
第14回	コ・プロダクション			定義、展開、役割と機能、育成、将来の課題					講義	
第15回	精神保健ボランティア			授業の振り返り						
評価方法 及び 評価 基準	<p>授業の参加態度50点、試験50点</p> <p>出席について：遅刻2回で欠席1回とする。30分以上の遅刻は欠席扱いとする。</p>									
課題等	リハビリテーションについて理解を深めておくこと									
事前事後 学修	教科書をよく読んでおくように									
教材 教科書 参考書	<p>・最新精神保健福祉士養成講座3 精神障害リハビリテーション論 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集 中央法規 2021</p>									
留意点	教科書に従って授業を進めるので予習復習をよくするように									